

大田区立図書館の 非公式サイトの つくり手たわけ

●大田区立図書館「非公式ウェブサイト」制作者インタビュー

▲1
大田区立図書館
「非公式ウェブサイト」の
トップページ
(2004年11月2日現在)
[http://homepage1.nifty.com/funana/]

大田区立図書館「非公式ウェブサイト」は、1999年12月に開設。大田区立図書館の一覧、休館日、開館時間、図書貸出状況やリクエスト情報、図書館の歩みなど大田区の図書館に関する情報を始め、23区内の図書館の休館日や図書館に関する法律・条例等も紹介されている

今や、知りたいことの多くを

インターネットで調べることができるようになった。

多くの企業や自治体がウェブサイトを開設している。

もちろん、公共図書館だって例外ではない。

東京都三区のうち、大田区以外の二三区の図書館が

ウェブサイトを開設(二〇〇四年二月現在)、

サイト内で、図書館の蔵書を検索することができる。

そんな中、おもしろい人がいる、という噂を耳にした。

「大田区立図書館『非公式ウェブサイト』を

運営している高橋浩行さんだ。

高橋さんは大田区職員で、

図書館に勤務していたこともある。

なぜ非公式ウェブサイトを作ろうと思ったのか、

これからどんな情報を発信していきたいのか、

高橋さんに話を聞いた。

誰でもわかることを
公開しているだけ

木村 高橋さんは、大田区立図書館の非公式サイトを個人で立ち上げて、運営されているわけですが、そもそも、どうして作ろうと思われたのですか？ まずは、きっかけを教えてください。

高橋 率直にいうとサイトづくり自体がおもしろそうだったからですね。パソコンは仕事で

一九八〇年代から使っていたんです。自分で買ったのは、一九九五年くらい。だから、パソコンにはけっこう古くから親

しんでいました。このサイトは、一九九九年の六月から準備を始めて一二月にオープンして

るんですけど、準備を始める少し前に役所の職員研修があつて、お

暮らしてらんじやないよ、みたいなことを講師にいわれて、

じゃあパソコンもあるし、時間外に何かサイトでも作ってみようかと。テーマは何でもよかつ

たんですけど、図書館のサイトをやってみようかなと。当時、

図書館に勤めていたので、身近だったのかな。

その頃、多摩市の図書館がやはり非公式サイトを立ち上げていたんです。図書館の職員で研究

グループを作つて。それを見たときに、「ああコレはいける」つ

て思つて、メールを出したんです。率直に「パクつていいですか？」つて。そしたら「どうぞ、

お好きに」つて返事をいただいたので、じゃあ始めてみようかな、と。

木村 非公式サイトでどういう情報を提供しようと考えたんですか？

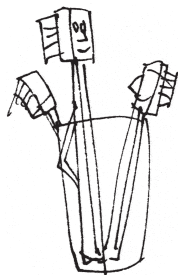
高橋 作り始めてから五年間、一貫して変わらないことがあつて、図書館に電話したりカウンターで職員に尋ねればわかる情報を、つていうのが基本です。

だからそれ以上の裏情報なんかは一切流さない。ソースは？

どつから持つてきたの？ まずいんじゃない？ ていうのは

流さない。だから、現在非公式サイトで公開しているベスト

オーダーにしても休館日にしても、カウンターに行つて職員に「この本、何人待ちなんです



高橋浩行

●たかはし・ひろゆき
大田区立図書館「非公式ウェブサイト」制作者。
元・大田区立大田図書館事業係主査。
現在は、大田区経営管理部
情報システム課情報システム担当係長

齋藤誠一

●さいとう・せいいち
立川市中央図書館
本誌編集委員

沢辺 均

●さわべ・きん
ポット出版・本誌編集委員

木村 瞳

●きむら・ひとみ
ポット出版・本誌編集委員

か？」とか「いま一番予約が出てるのは何ですか」と聞けばわかることなんです。それ以上のことは載せません。表に出せない情報を流す、っていうのはルール違反だと思うし、私自身そういうことをやりたくない。

たまに「公務員がこういうことをやっているのか」っていうようなメールが来ることもあるんです。ですから私は、窓口に行けば誰でもわかることをウェブ上でオープンにしているだけなんですっていうスタンスで、サイトを作っているんですよ。

ウェブサイトを身の丈で作る

沢辺 マシンは何を使っているんですか？

高橋 eMac800^①、OSはMac OS Xの10.3です。その前は、漢字Talkの7.5.5だったんです。

沢辺 漢字Talkかあ。すごいねえ。SBが何か使ってたんですか？

高橋 いえ。パフオーマの5410。T-Zoneのアップル館がオープンしたときに、記念セー

ルで一〇万円ぐらいで買ったんです。

沢辺 OSXにしたのは、なぜ？

高橋 前のマシンがよく落ちるようになったからです。

沢辺 ウェブサイトは何で作っているんですか？

高橋 「euc」^②というテキストエディタでタグを書いて、タグ書きのマクロがあるのでそれを使うこともありますが、このサイトの更新くらいだったら、テキストエディタで十分ですね。

沢辺 もうちょっと詳しくそのあたりを聞いておくと、最近興味を持っているソフトとかネットワーク上の技術ってありますか？

高橋 サイトの作成に関連して言えば、ないですね。JSP^③で必要かつ十分なんですよ。それから、ウェブサイトを作るための投資っていうのも何もしないんです。

沢辺 えーっと、URL^④はどこだったけ。ああ、ニフティか。これは、ニフティの会員に割り当てられているものですよ。高橋 ええそうです。二〇メガ

の容量で。テキスト中心なら二〇メガで十分なんです。

それに、これは役所でもいつていっているんですけど、公的なウェブサイトにっていうのは、アクセスしてくる人も何らかの情報を知りたくて来ているので、エンターテイメント性はゼロでいいと思うんですよ。いらないうと思う。「大田区役所」^⑤って出て、何かアニメーションが動くとかそういうのは必要ないと思っています。だから、非公式サイトもタイトル部分以外は、画像を入れていないんですよ。

沢辺 すごくシンプルな作りだよ。流行はそんなに意識してないよね。むしろ流行に抵抗してるといふか……。

高橋 抵抗……結果的にしているかもしれないですね。自分がずつと重いマシンを使っていたので、とにかく軽いページがよかったです。実は最初はすごく壮大なものを考えていたんです。何でもアリの立派なウェブサイトを作ろうと。でも、金もない、時間もない、一人じゃ何もできない、それにウェブサイトを作るより、家でごろ寝して

いるほうが好きですからね。それもあって、あっさり系にしたんです。身の丈でやるだけです。

非公式は予算が取れたときの実験台！

木村 図書館のサイトを個人じゃなくって、区で作る、運営するっていう話はないんですか？

高橋 ヒラの職員レベルでは、そういう話もできています。二三区中、計画中のところもふくめてほとんどの区は、手を付けている。都立図書館の横断検索のページでは各区の蔵書検索ができます。けれども大田区はもとになるような検索サイトがないですからね。大田区役所にも「なんで大田区の図書館はサイトがないんだ」、「どうして蔵書検索できないんだ」っていうお叱りも来ます。だけれども、こればっかりは施策、つまり行政の思想の問題ですから。区長なりなんなりが「やらない」っていうえば、たとえ一円でもやらないし、「やる」っていうえば一億円かけてでもやります。大田区では図書館のサイトはそれ



高橋浩行
たかはし・ひろゆき
大田区立図書館『非公式ウェブサイト』制作者、元・大田区立大田図書館事業係主査。
現在は、大田区経営管理部情報システム課情報システム担当係長

図書館時代の仲間に「『ず・ぼん』のインタビューを受けてから、少し非公式サイトを過激にしようかとも考えている」といったら、「『ず・ぼん』に実名で載るだけで、十分過激だよ」といわれました（笑）。
[高橋さん談]

にあてはまらないことなんです。役所風にいうと、時期尚早”っていうんですか。そういう考えなんです。私は、大田区図書館のシステム担当を三年間やっただんですが、その間、オフィシャルな図書館のウェブサイトを制作するための予算要求もしてきました。けれどもやらないと。

木村 区にそういう話を持ちかけたのは、非公式サイトを立ち上げる前ですか？

高橋 いえいえ、立ち上げてからです。私がシステム担当になったのは、非公式を立ち上げてからの話なので、ウェブの予算をあげたのも立ち上げたすつとあとです。

木村 先ほどの話だと何かウェブサイトを作りたいという気持ちがあつて、じゃあ身近なところで、図書館のサイトをということでしたが、個人の非公式サイトと平行してオフィシャルな図書館サイトの構想はあつたんでしょうか。

高橋 平行してっていうよりは、さっき話した多摩市がそうなんですけど、非公式のウェブサイトを作っていたんだけど

も、オフィシャルなものができたら、やはり非公式のほうはやめちゃうわけですよ。同じメンバーが両方やるのは無理なわけです。だから私も自分が図書館でシステム担当になってウェブサイトの予算案を作り始めてからは、どちらかというと予算が取れたときのための実験というか、どんなふうにつづくのかなとか、どういうニーズがあるのかなとか、そういう実験的な気持ちがありましたね。非公式はオフィシャルの担当になったときの練習台というか……。そういう感覚でした。それは一年半近く前に図書館を出る日まで思っていたことでした。

沢辺 いやいや、高橋さん、もっと確信的なんじゃないですか？ つまり逆で、高橋さんがおっしゃるように、図書館は何時に開館しているとか、そういう公開されている情報をウェブサイトにするっていうのは、本来はやったほうがいいわけですよ。オフィシャルでやればさっきの横断検索なんかもちっと進められる。そういうことはやった方がいい。それで、それを

を実現するために、非公式の個人サイトを作って区を挑発しているんじゃないですか。

高橋 挑発……。まあ、それはよくいわれるんですけども、作っている本人としては、そういう意識はあんまりないですね。実際そういうふうにとられることも多いんですけどね。

沢辺 対抗意識は？ つまり、対抗意識っていうのはね、ちゃんとやるべきことをやらせるために、企画をあげて予算をお願いしますっていうのも一つの手かもしれないけれども、現に自分のできる範囲でやってしまおうっていうのも手なわけ。

高橋 そうですね。ただ、図書館のサイトっていうとメインはやっぱり蔵書検索と予約なんです。けれども、図書館の蔵書っていうのはすごく動的なものなわけですよ。何百冊入る、それが借りられて、返ってきて、そして捨てられて……。それを個人のサイトで扱うのは無理なわけです。私のところに来る要望のメールのほとんども、その二つなんです。

非公式は電話など他の手段でも

わかる情報を公開しているだけなので、そういう区民のニーズには応えていない。だから、対抗意識っていうのとはちよつと違いますよ。

ただ、さっきの挑発っていう点でいえば、あえて近隣の自治体の蔵書検索にリンクをはつっているんですよ。これが、唯一挑発といえれば挑発かなと。大田区はやっていませんよ、というのを暗に伝えているのかもしれない。大田区の図書館の蔵書があるかないかはとにかく図書館に連絡してくれと。電話するなりなんなりして文句いうなり、聞くなりしたほうがいいよって。その結果、各図書館のほうで「電話の問い合わせが多くなってさ」ということになれば、余計に職員の方から、声が上げやすくなるかなとは思いますが。ただ、正直なところそんなに打算的には考えていないです。計画的にはやってないですね。

なぜ、実名公開にこだわるのか

沢辺 職員から批判の声はあり



2004年8月10日、ポット出版にて
左から齋藤誠一、高橋浩行

ますか？ つまり、さっきの話だと、やるやらないは区で決める、つてことですよ、そんな中で職員、あるいは図書館員の中から、何でお前こんなことやつてんだよ、つていうニュアンスの声はありますか？

高橋 そんなにないですね。ああ見たよ、とはいわれますけど。どちらかというと、批判的な声よりも「どうしてこんなことやつてるの？」つていう単純な疑問とか、「実名を出してやつててヤバイことになってない？」つていう心配が多いですね。

沢辺 それに対する現実はどうですか？

高橋 私自身は実害はないと思っています。

サイトを見た方から来る批判についても、こういう見方もあるかって思うし、その程度ですね。ケンカする気がなければ絶対にメールアドレスなんて公開しないですから。だから、どんな批判メールであつても必ず返事は出します。脅してみたいものであつても。「匿名」で「ある図書館の」でも「某市の」でもい

いところを、「元大田区立図書館職員の高橋」だつていうことまで出して「大田区の図書館」のサイトをやっているわけですから。こうやって名前を出している以上は、きちんと対応します。

沢辺 その実名にこだわっている理由は？

高橋 非公式だからこそ、つていうのはありますね。非公式でなおかつ実名を出していなければ、それこそ信憑性以前の問題になってしまふかなつて。パソコン通信時代にもハンドルネームを使いながらも、こういう立場の人間だ、というのをはつきりさせて発言していたこともありますし。

沢辺 そのへんはそういう蓄積があるんですよ、やつぱり。

高橋 そうですね。

沢辺 今現在、実名を出して何かをやつていくつていうことが軽視されていたり、きちつと考えられていなかったり、あるいは過剰に怖がられていたりつていうのがあるよね。だから、例えば、ある会社のサイトを見ていて、住所が載つていなかった

りすると、がっかりするんだよ。お前から何考えているんだよ、つて。いや、僕は個人だつたら、住所なんか載せる必要ないと思うんだ。まあ、メールアドレスくらいはあつたほうがいいかな、防衛のためにフリーメール使つてもいいけど。ともかく、連絡を取れるくらいにはしておくべきだと思う。自分の意見を公開しているわけだから。それに対して何か返つてくるものはあるだろうし。それが、法人組織であるのに、無自覚に載せていなかったり、漏らしたりしているときがある。それつて、無意識の過剰反応、防衛反応だよ。結局、そういうことがきちんと考えられていないからなんじゃないかなあつて。高橋さんは、そんなふうには思いませんか？

高橋 ええ、私も思いますよ。それは、例えば名刺配つておいて連絡先が載つていないのと同じですよ。夜のお店じゃないんだから、名前だけじゃ済まないだろう、つていうね。そういうふうな腹を立てることはあります。だから私自身、メールア

ドレスと名前は公開している。それは、表現する者としては、最低限のルールですよ。批判メールが怖かつたら、私はこういう考えをしています、つていうのをやらなきゃいいし、やつちやいけないとも思います。

減ってきた 批判メール

沢辺 実際、その批判メールつてどのくらい来るんですか？

高橋 今は全体の三分の一くらい、少ないときで月に二、三通くらいです。サイトに来訪アンケートつていうページをつけていて、ここからいらつしやる方が多いです。最初は半分位が匿名の批判メールでしたから、最近、批判のメールは減つてきていますよ。

斎藤 それは、高橋さん個人への批判？ それとも大田区への批判？

高橋 あ、大田区に対する批判メールは、批判メールというふうに受け取っていません。個人あての、何でこんなことやつてんだとか、大田区の名前出し

ていいのかとか、職員のくせに非公式とは何事だ、といったものですね。これを作っているのに対して批判です。それから、批判の声で多いのは、やはり蔵書検索。できると思った、できなかった、がっかりした、それが批判の声につながっている、というパターンはありますね。

木村 他にはどんな反応がありますか？

高橋 いい方の反応がやはり三分の一位。公式のウェブサイトがないのに、こういうのがあつてほっとしましたとか、これからも続けてくださいとか、そういう内容です。残りの三分の一は、こういうメールは区役所に直接送ったほうがいいな、という類いのもの。例えば、早く蔵書検索ができるようになるというですとか、大田区の図書館でアルバイトをしたいんですけどどうしたらいいんですかとか、そういうのが来訪アンケートに書かれていることもあります。**木村** それらのメールの内容は、区に伝えるのですか。**高橋** 前は、どこそこの図書館でこんな嫌な目にあつた、とか

いう苦情メールが来ていたんです。そういうものは、プリントアウトして、メールアドレスなどの情報を黒塗りにして誰から来たかわからない状態にして、こういうの来てますから参考までについていって、上司に渡していました。大田図書館にいた頃です。でも、今はそれはしないですねえ。

それより、アンケートのページから、直に大田区役所のオフィシャルサイトにリンクをはったので、そっちのほうに流れていると思います。広報広聴課っていうところがあつて、そこで区政への意見をメールフォームで送れるようになっていっているんです。

沢辺 高橋さん、これ見たら、やっぱり確信的のしか思えないよ。**高橋** いやいや、これは、非公式のサイトに来る意見を転送しなくなつたからです。図書館を出てしまつたので上司に渡すわけにもいかないですから。**沢辺** わかるけど。やっぱり、なんか考え尽くされている感じがしますよ！ いや、僕、批判的に思っているわけではなくって、基本的には愉快に思っているんですよ。大田区！ 図書館をもっとちゃんとやれよ、っていうのが、すごく感じられて。**高橋** いや、それは、もちろん大田区の職員として思っていますよ。でも、この非公式サイトをその武器にしているつもりは、私自身ないですね。

Yahoo! Japanからメールが来た

木村 サイトを作っていてうれしかったことって、ありますか？

高橋 うれしかったのは、サイトを作った翌年（二〇〇〇年）の夏頃にYahoo! Japanからメールをいただいたことですね。Yahoo!のトップページから、図書館をクリックすると、図書館の区分けがあるんです。そこで公共図書館を選んで、公共図書館から市区町村立図書館のサイトへっていうふうなリンクがはつてあるんです。そこに全国の市区町村立図書館が五十音順で並んでいます。

それまでは、大田区ってなかったんですけど、Yahoo!のほうから非公式でいいからリンクをはらせてもらえないか、つてきたんですよ。普通、Yahoo!って載せてくれていってダメだつて言われてしまいますよね。それなのに、Yahoo!から来たということ、すごくびっくりして。そのときにちよつとテングになりましたね（笑）。

沢辺 そりや、喜ぶでしょう。僕もそんなメールをもらつたら喜ぶと思う。

高橋 そのメールは、プリントアウトして額に入れて飾ろうかなあ、つて思いましたね（笑）。同僚なんかも喜んでくれましたしね。アクセス件数も増えていて、立ち上げた頃は、九万なんて数字にいくと思つていませんでした。今日現在（二〇〇四年八月一〇日）で九万六〇〇〇なんですけど。最初は一週間に二人とかその位のアクセス件数だったんですけど、今年四月から今日までの平均だと、だいたい一日平均一〇〇〇人がアクセスしてくれています。

▼2 非公式ウェブサイト内の 高橋さんの自己紹介のページ

[http://homepage1.nifty.com/funana/hiro/welcome.htm]

このページからさらに詳細な自己紹介のページである「act1 私はこんなヤツです。」act2 こうやって生きてきました。」や「act3 リンク集」とべるようになっている。また、「★メールはこちら」から高橋さんに直接メールを送ることができる



▼3 「act1 私はこんなヤツです。」のページ

[http://homepage1.nifty.com/funana/hiro/act-1.htm]

名前、免許・資格、家族から始まり、影響を受けた音楽家、好きな映画、好きな女性芸能人、毎日見ているテレビ番組、生活信条、今でもなりたい職業、生活習慣……とその項目は33項目におよぶ。ページの名前通り確かに、どんな人なのかよくわかる



本当に 『時期尚早』なのか 高橋 区の方針だから(笑)。

高橋 区の方針だから(笑)。
 高橋 僕も斎藤さんと同じ。高橋さんのいうことはよくわかるんだ、組織っていうのはそういう部分もあると思う。とはいえ、社会に生きているんだからなっと思う。これだけインターネットが当たり前になりました、他

の図書館もほとんどんサイトで作っています、そんな中で……。声はあるんだよね？
 高橋 ええ、図書館のカウンターでのやりとりや電話などだけでなく、区の広聴サイドにも、多くの意見が来ています。
 沢辺 でしょう。それに、行政に対しての意見もわりといいやすくなっていると思う。具体的にこういうことやつてよとか、いやらしい世の中になってきているよね。で、実際に声もあると。そんな中で個人的な趣味趣向で、やらないと決められるのか

なあ。例えば、一九九五年とか六年にサイト作るうよ、っていつてもダメなんだけど、今ならっていうのは、あるよね。
 斎藤 そうそう。その頃なら『時期尚早』っていわれても、ああそうだねって思っちゃうかもしれない、金もかかったかもしれない。だけど、今なら金もそんなにかららないだろうし……。
 高橋 ええ、そうですね。かえってコストダウンになると思うんですよ。例えば、携帯電話に予約していた本が入りましたよ、とメールすれば電話がかから

斎藤 そりゃあ、来るだろうな。当然だろうと思いますね。非公式でも何かできるだろう、ということでもアクセスしてやる人は、けっこういるでしょう。アクセスしてくる人には公式／非公式なんて関係ないでしょうから。しかし、やっぱり不思議だなあ。どうして大田区は公式のサイトを作らないの？

斎藤 うん。方針だからやらないうっていうのは、あり得ることだと思っただけで、サイトが欲しいっていう要求はありますよね。その部分に図書館として、何もアプローチをしない、説得をしないっていうことが、今の時代であり得るのかなと。
 沢辺 僕も斎藤さんと同じ。高橋さんのいうことはよくわかるんだ、組織っていうのはそういう部分もあると思う。とはいえ、社会に生きているんだからなっと思う。これだけインターネットが当たり前になりました、他

の図書館もほとんどんサイトで作っています、そんな中で……。声はあるんだよね？
 高橋 ええ、図書館のカウンターでのやりとりや電話などだけでなく、区の広聴サイドにも、多くの意見が来ています。
 沢辺 でしょう。それに、行政に対しての意見もわりといいやすくなっていると思う。具体的にこういうことやつてよとか、いやらしい世の中になってきているよね。で、実際に声もあると。そんな中で個人的な趣味趣向で、やらないと決められるのか

なあ。例えば、一九九五年とか六年にサイト作るうよ、っていつてもダメなんだけど、今ならっていうのは、あるよね。
 斎藤 そうそう。その頃なら『時期尚早』っていわれても、ああそうだねって思っちゃうかもしれない、金もかかったかもしれない。だけど、今なら金もそんなにかららないだろうし……。
 高橋 ええ、そうですね。かえってコストダウンになると思うんですよ。例えば、携帯電話に予約していた本が入りましたよ、とメールすれば電話がかから

ないですよ、通信料がぐっとおさえられる。それに、利用者の方だって、携帯にメールがくれば、仕事の帰りに寄ろうかな、という判断もできる。家に帰ったら留守電が入っていて、なんだよ本が入っているなら、さつき図書館に寄って来られたのに、みたいな行き違いもないですよ。

そんなふうには、職員の検索コストだけでなく、メールだけでも利点はたくさんある。だけれども、ウチはやらないと決めたらやらない。

沢辺 それって、かなり異常な気がするよ。逆に部長がやるうっていても、現場の職員にやる気がないとか、あるいはスキルがない、わからない、そういう状況なら仕方ないし、業者に頼むと何百万かかるかもしれない、そうしたらうーんって思うかもしれないけど……。

斎藤 それにね、高橋さんがそれだけのことができるっていうのがわかっていて、それを行政で使わない手はないと思うんだけどなあ。つまり、これにちよっと手を加えてシステムと連動さ

せれば、もうできちゃうわけだよ。それが、例えば、区役所の人ではなくってまったく外部の人ならどうにもならないかもしれないけど、区役所の内部の情報システム課の人がここまで作ってしまったらいいわけですよ。

いずれやるうよ という話になっていた

高橋 私が図書館にいた頃、図書館のシステムをリプレイスして、IBMのマシンを入れたんです。これは世田谷などにあるものと同じで、それらの区ではウェブでの蔵書検索をしています。そのときの私の上司に寺崎さんという方がいて、コンピュータのスキルが結構高い人なんです。その人たちと図書館のシステムをリプレイスしながら、いずれやるうよ、という話もしていたんです。そのときの部長もメンバーが揃っているうちにやるうよっていつてくれているんですけど、定年で退職されてしまった。それで、そのあとはやらない、となってしまう

たんです。どれだけ苦情があっても要望が寄せられていようと、トップクラスの言葉でいえば、プライオリティーが低い、と。

ば相談に乗りますが、図書館がウェブ対応する云々っていうのは、情報システム課が考えるのではなくって、まずは教育委員会で施策としてどうするのか考える、っていうふうには役所の中で切り分けられているっていう現状がありますね。

斎藤 それで、異動して今のセクションは情報システム課ですよ。そうすると図書館にいた頃よりそういう提案をしやすいのでは？ 区の全体状況のなかで大田区の図書館もウェブサイトを作ったほうがいいよ、っていうふうには提案できる部局ではないかな、と思うんですけど。

斎藤 切り分けはあるとは思いますが、切られなくても、今の情報システム課であれば、区の総合的な情報管理の視点から教育委員会に対しても提案している立場なのではないのかなあと、思っています。

高橋 それは、組織ごとの考え方がハードルになっている部分がありますね。それから図書館のシステムっていうのは、区役所のシステムとは別にありますから。やはり図書館は独自でネットワークもサーバーもシステムも構築しているんで、そこまで情報システム課は、手をだせませんね。

僕が大田区の図書館にいたら、高橋さんが情報システム課に異動してラッキーって思いますね。システム課に移った高橋さんに図書館のサイト頼むよ、っていい。

例えは図書館で、インターネットをやるためにネットワークを増強しておこうという話がで

ね。現場のシステム担当の職員は、今年もウェブサイトを作る予算を上げようとしてしまいましたが。

お金はそんなに かからない

沢辺 だいたいその時点、予算



斎藤誠一
さいとう・せいいち
立川市中央図書館調査資料係長、
本誌編集委員

を上げる時点での要求額って
いったいどのくらいなんです
か？ ざっくり、桁を教えてい
ただきたいんですけど……。
一〇〇〇万円以上になるのか、
数百万になるのか。

高橋 切り分けが難しいんです
よね。ウェブサイトを作る予
算っていうふうには、上げてい
ないので。例えば、カウンター
の端末増設とか、先ほどお話し
したメール対応とか、電話の
自動応答とか、そういうのも含
めてこみこみで予算を組んでい
ますから。

沢辺 ああ、なるほど。あとは、
データベースとつなげるとかそ
ういうのも含めてだよね。そう
すると、けっこうな金額になる
だろうね。一〇〇〇万、超えちゃ
うのかな。

高橋 やりようだと思いますけ
ど……。

斎藤 でも、今の図書館のシス
テムは、そんなのカーバーされて
いるから、そこまで大変な話で
はないですよ。

沢辺 あ、カーバーされてるの？

斎藤 されてますよー。

高橋 それ用のインターフェイ

スを変えればってことですよ
ね。立川は、何のマシンを使っ
ているんですか？

斎藤 日立です。

沢辺 Oは何で動いているの？

斎藤 Windows NTです。それ
で、ウェブサーバー、メールで
の配信、電話での音声応答もし
ています。それはそんなにお金
がかかるわけではないし、それ
をウェブサイトとつなげるなん
てのは、そんなに大した話じゃ
ないよ。

高橋 仕掛けの安全性の問題が
あって、大田区の場合は別に
ウェブサーバーを設けようとし
ているので、その分、費用がか
かりますね。

斎藤 まあ、それにしたって、
そんなにお金のかかる話じゃな
いよね。かかったとしてもいか
ようにでもできる。

高橋 ただ、よくウェブ対応す
ると一館分増えたような作業量
になるっていわれますよね。今、
大田区は委託が段階的に始まっ
たばかりですから、もしかした
ら全館の委託が完了したら、
ウェブ対応の話が出るのかもし
れないけど、まだそういう議論

はされていないようですね。

斎藤 そうすると、予算云々っ
ていうより、ウェブサイトの維
持管理の問題なんじゃないか
な。どこで中心的に管理するの、
とかそういうところがネックに
なっているのでは。

誰がサイトを 管理するのか

沢辺 図書館のサイトを維持し
ようとすると、どの程度、コン
ピュータのスキルが必要なん
ですか？ つまりさ、高橋さんは
きわめて個人的にコンピュータ
に親しんでしまったっていう経
緯があったわけですよ。

で、まだまだコンピュータって
いうのは、属人的な要素が多い
と思うんですよ。つまり、シス
テムに興味をもって主体的にい
ろいろ調べてやっていく人とそ
うでない人、さまざまいるわけ
じゃないですか。

小さな出版社もみんな同じなん
ですよ。たまたま社員の中にわ
かるやつがいる場合と、誰もい
ない場合がある。でも、それら
は書店さんや読者から見れば同



じ出版社なんです。で「なんでメールで注文受けてくれないのよ」って十把一絡げにいわれちゃうんだけど、その中にいる人を見ているとき、ちょっと無理なんじゃないかな、って思うこともあるのよ。仕事にはそういうことって他にもいろいろついでまわると思うんだけど、コンピュータっていうのは、けっこうそれがシビアに出してしまうジャンルだなって思うのよ。

僕は、公共図書館にはウェブサイトがあつたほうがいいと思う

んだけれども、誰がどうやって更新するのかとかそういうことを考えると、ちょっと待てよと。大田や立川くらいの規模があればいいかもしれないけれども、規模が小さくなればなるほど、そういう職員がいる確率が減ると思うんですよ。それで、公共図書館のサイトを維持するには、どの程度のスキルが必要なのか、と。

高橋 どこまで委託ができるのかとか、どこまで技術的な保守を外部にまかせられるのかっていうレベルによると思います。

でも、図書館のサイトを立ち上げたあと、マシンやシステムの担当者がサイトのメンテをやらなくても、サイトの担当者にはコンピュータの基本的な知識があれば十分だと思えます。

「だって何とか、(元)って何とかそのくらいの知識。コンピュータのスキルの高さよりも、実際に作業をする人とのコミュニケーション能力や、図書館の業務をちゃんと理解していることが必要だと思えます。」

沢辺 ところで、立川の図書館のサイトって誰が管理してる

の？

齋藤 立川市の図書館には、『マイライブラリー』っていう広報紙を作っている担当が六人いて、その六人が編集会議をやる中でサイトのことも話し合っています。その六人とコンピュータ担当とでうまく調整してやっていますね。更新に関しては決裁が回ってきます。それでオーケーが出た段階で更新をするという流れです。

沢辺 実際の程度、手間がかかるの？ 利用案内、各館紹介はほとんど更新いらないうね。

▼4 来訪アンケートのページ

[<http://homepage1.nifty.com/funana/enq.htm>]

ページ上部に「図書館への要望、苦情などについては、大田区役所のオフィシャルウェブサイトからメールを送られるか、各図書館の窓口へ直接お寄せください」とお願いがあり、大田区役所のメールフォームリンクがはられている。名前を記入する欄の横に「(できればお書きください)」、メールアドレスを記入する欄の横に「(記入がないと送信できません)」の注意書きがある



齋藤 いらないですね。それから「資料を探す」は図書館のデータベースと連動して動いていまずから、更新はいらないです。それから新聞記事のデータベース（「新聞記事を探す」）は、タイトルだけですけど、これはデータ入力が入った段階で更新情報を流していますから。

沢辺 そうすると、「お知らせ」と「カレンダー」ぐらい？

ウェブに対応すると物流がパンクする

高橋 ウェブの管理はそうなんです。ですけども、蔵書検索をして予約をかけるとなると、今度は本の流れが問題になってきますよね。本に物理的な動きがでるから。資料費削減などで選書を集中していることもあって取り寄せなどだけで、今でも物流がアップアップなんです。よ。

沢辺 立川はどうなの？ 物流は。

から、なんでもかんでも予約ができるというようにはしていません。要は、貸し出しされているものに関しては予約ができ、所蔵されているものに関してはウェブ上で予約はかけられません、図書館までいらしてください、となっています。だから、予約がどんと増えているということはないんです。うちは段階的にやっつけていこうと考えているんです。

沢辺 なるほど。立川はまわせる範囲でやっつけていこう、という考え方だよね。で、どこまで拡大するの？

齋藤 次の段階では、予約の段階で取り寄せができる、つまり予約した本をどこの図書館で受け取るかを指定できる、ということをやウェブ上でできるようにしたいと考えています。

高橋 理想はすべての予約を受けられるという方法だけれども、やはり、物流の保証がないとそれはできない。立川みたいに、ウェブ上の予約に関しては制約をかけるというのも物流の問題をクリアする一つの手です。ただ、そうするとウェブを

見ている方には、サービスの低下ととられかねないですから。けれども、物流を活発にすれば、その分、人件費もかかりますから、そのあたりが難しいなあ、と思いますね。

情報公開の拠点として図書館サイトで何ができるか？

木村 サイトの話に戻ると、図書館のカウンターで聞けば教えてくれる情報を基本に考えていって、しやるということですが、そうすると現状のものにプラスしたい要素ってありますか？

高橋 やはり蔵書検索ですよ。ね、あとはレファレンスっていうのもありますが、これらは、個人のサイトだと無理。個人ができる範囲でいえば、区議会の委員会の議事録から図書館関係の答弁を抜き出して、掲載したいですね。ただ議事録から該当部分を拾っていく作業は、かなり面倒なので、まだ取りかかれています。

なで図書館を考えるのに有効かなと思つて。それにこれは、オフィシャルのウェブサイトでできても、そこではやらないことでしょうし。

齋藤 非公式だからこそ、できることって他に考えていないの？ 例えば、図書館の応援団として、大田区は蔵書検索のウェブサイトもないよ、っていうふうには叩くのかも非公式なんだからできるはずですよ。個人が意見を発表する場なわけだから。そこは高橋さんの中でどこの職員の冠なのかが冠になっているんじゃないかなあ。

高橋 でも、結局は大田区の職員ですからね、また図書館に戻るかもしれないし。

齋藤 そうですよ。ね。

高橋 それからもう一つは、お手本にした多摩市の非公式のサイトが非常に破綻のない作りでした。これをイメージして穏やかにやっつけている、っていうのもありますね。

沢辺 行政とのしがらみとか時間とか手間の制約がなければ作りたい理想の図書館サイト像ってありますか。

高橋 いや、ないです。

沢辺 そうだよね。ないよね。話聞いてると。当たり前のことがちやんとやればいいかなっていうことなんですかね。

高橋 そうですね、当たり前のこと、基本的なことができればいいですね。図書館のカウンターで対応していることをウェブですればいい、っていう考えですね。エンターテイメントもいらない。

沢辺 齋藤さんは、何か理想の図書館サイト像はありますか？

齋藤 僕は、いかに地域の情報を図書館として発信できるか、だと思います。

沢辺 もっと具体的にいうと？

齋藤 図書館で情報に対する評価をして、その情報を組織的に地域の情報として発信していく、ということを図書館のウェブサイトでやるかやらないか、そういうことがこれから論点になっていくんじゃないかと。

沢辺 例えは？

齋藤 例えは、うちでいえば立川市関連新聞記事の見出しデータベースっていうのを立ち上げ

ているわけですよ。いま、新聞社は各社で新聞のデータベースを当然作っているわけです。だから、そこを有料で使えばいいわけなんだけれども、地方版は、やはり抜け落ちてしまう。それをフォローするために、うちで毎日新聞を見て、立川市に関連する記事の見出しを入力してサイトにアップしている。将来的には、これを強化して立川市に関連するさまざまなデータベースを作りたい。例えば、立川市に関するいろいろなお問い合せのレファレンスの事例データベースとかね。

何でこんなことをいうかっていうとね、普通のレファレンスに関するデータベースは、国立国会図書館が進めている協同データベースに協力すればいいと考えているんです。

沢辺 あるいは、立川は立川の

領分をやって、大田は大田の領分をやって、横断検索ができる、いいよね。

高橋 そうです。だったら、きちんと立川のことは立川で責任をもつてやりましょうと。そういうものを作って、発信をしていく、見られるようにする、それが重要だと思います。

もつといえはね、立川のどこそこにはこういう病院がある、ここはこれこういうところがいいんですよ、というような情報があるのであれば、それらをデータベース化して公開していく。そういう地域の情報を図書館が取り入れて、うまく組織化して発信していくということ

ができるだろうと。

沢辺 地域のテニス・サークルとか子供たちの少年サッカーチームの参加のお知らせなんかは？ そこまでは考えていない？

齋藤 いや、それも有り得る話だと思います。でも今の行政組織では、公民館の領分とか、体育課の領分とかというのがネットワークになります。その調整が必要になるんです。

高橋 どうして図書館がそれをやらなければいけないんですよ

うか、っていう声はどうしても上がると思うんですね。その縦割り感覚も行政によくある問題ですよ。

齋藤 それは、連携だと僕は思いますよ。これって商工課の仕事ですよ、でも図書館にはデータベースを作るノウハウがありますから一緒にやりませんか、というふうに向こうを立てながら情報活用をしていくというテクニクが図書館員にも必要ですよ。

沢辺 そういう点は、高橋さんどうですか？

高橋 役所の縦割りは悪い悪いっていわれるんですけど、縦割りにいいところもあるんですよ。それに横軸を入れていくのがインターネットのリンクであり、横断検索なんだなっています。

昔、小平の中央図書館を訪ねたとき、新聞の折り込みチラシや市内の定点撮影写真のファイルングをしているのを見て、どうしてこれ図書館でやるんですか？ 広報でやらないんですか、って図書館の人に質問したのを、ふっと思いつきました。

▼5 立川市図書館サイトのトップページ
 [http://www.library.tachikawa.tokyo.jp/home/index.htm]

立川市図書館のページは、利用案内、各館紹介、お知らせ、図書館カレンダー、立川市例規類集、資料を探す、新聞記事を探す、予約・貸出を確認する、暗証番号・連絡方法の変更、特別コレクションの10のコーナーで構成されている



あのとときに質問したことは、今この話を聞いていたら、すごく理解しやすいですね。それが自分の理想とする図書館のサイトかっていうとまた別問題ですけども。ただ、自治体内の横のリンクって、ああやりようだかって、思いました。

沢辺 そうだね。情報っていうことだけでいっても、どこでも横断できるもんね。つまり、図書館はすべての情報の窓口になりうるっていうのかな。情報公開の窓口が一番近いのは、実

は図書館なのかもしれないですね。

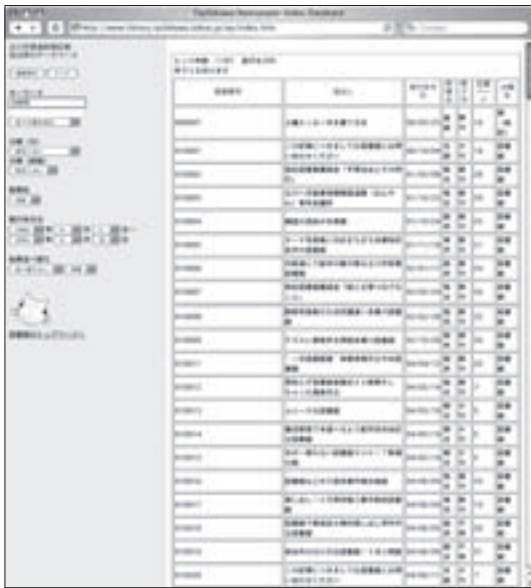
高橋 例えば図書館行政に関心のない職員や議員さんたちの話を聞いていると、どうも図書館って福祉的な見地からとらえられてるんですよ。例えば、本が買えない人のために図書館があるんだから高価な本を置きなさいとか、文庫本や週刊誌はそんなに高くないんだから図書館に置かなくてもいいだろうとか。でも、実はそういう福祉的な見地で図書館があるのではな

くって、どちらかというところ情報公開制度に近いところにある公の施設であるべきだと思います。

知りたいたいことをそこで解決するっていうのは、情報公開ですもんね。大田区はスポーツ新聞、週刊現代、週刊ポストの購入をいつさい止めてしまった、その根底には個人で買えばいいだろうっていう発想があると思えます。でも、そうじゃなくって、これからは情報公開の視点で図書館を運営するべきですね。

▼6 立川市関連新聞記事
 見出索引データベースのページ
 [http://www.library.tachikawa.tokyo.jp/home/index.htm]

2004年10月6日現在、「図書館」で検索した結果、1183件がヒットした



今のお話を伺っていて、そういう意味では、何でもありかな、何でもできるのかな、という気がしてきました。それには、費用もかかるし、テクニクもいると思いますが。

沢辺 だから、今、図書館って面白い施設なんだよね。

斎藤 使わない手はないですよ。そういう認識で図書館だけにとどまらないところから図書館を作っていくかなと。

(二〇〇四年八月二〇日)